

# 環境倫理の諸問題

1. 環境問題の認識
2. キリスト教と環境問題
3. 環境問題に対するキリスト教の応答
4. 環境倫理をめぐる課題と展望

## 1. 環境問題の認識

## エコロジー（生態学）とは

- \* もともとは生物とそれを取り巻く環境との関係を研究する生物学の一分野。
- \* ドイツの動物学者E・ヘッケルが1866年に著作の中で用いたのが最初。
- \* 自然保護運動の高まりと共に、今では生物学の領域を超えて、広く環境保護という意味で用いられるようになる。

## エコロジーに関連する 言葉・テーマ

- \* 語源はギリシア語の「オイコス」（家）
- \* エコノミーも同様。
- \* 環境問題と経済問題は表裏一体の関係にある。
- \* 「地球にやさしい」？
- \* 人間の倫理・食の倫理・動物の倫理の一体性

## 環境問題の先駆者（1）

- \* レイチェル・カーソン（1907-1964）
- \* 『沈黙の春』（1962年）
- \* 「アルベルト・シュヴァイツァーに捧ぐ。シュヴァイツァーの言葉——未来を見る目を失い、現実には先んずるすべを忘れた人間。そのゆきつく先は、自然の破壊だ」。



## 環境問題の先駆者（2）

- \* アルベルト・シュヴァイツァー（1875-1965）
- \* 「生命への畏敬」
- \* 「わたしは、生きようとする生命に取り囲まれた生きようとする生命であるという事実」
- \* 生命中心主義の先駆者的役割を果たす。

